

令和7年度 上武大学 大学院 経営管理研究科 シラバス

講義番号		授業科目名	財務会計特論 A			担当教員	岩下 尚義				
		英語授業科目名	Financial Accounting A			単 位	2	学 期	前期		
対象年次	1・2年次	クラス指定	なし			他との関連	租税法特論 A, B				
履修条件	財務会計の基本的な理解を有していること										
テーマ・副題	会計学の本質的な理解と会計基準の研究・検証										
授 業 の 教育目的 ・ 目 標	会計は「ビジネスの共通言語」と呼ばれている。会計の本質的な理解を深めることは、会計学の研究だけでなく、租税法や経営学など様々な学問や実務にとって有用である。本授業では前半は「会計思考」をテーマとする。後半は今日の動向・基準を検証するため、IFRS の理解を深めていく。会計思考と実際の基準を相互に研究することで総合的な会計力を高めていくことが目標である。										
授 業 の 理解度の 到達目標	会計学、特に財務会計は「外部報告目的」の会計である。現行基準の制度を理解するとともに「なぜその情報を報告することが求められているのか」について繋ぎ合わせられることを到達目標とする。										
授業キーワード	財務会計，企業会計基準，国際財務報告基準（IFRS），										
授業の内容	会計学の本質的な理論（原理）と現行基準の制度について解説する。										
授業の方法	下記授業展開に示す「会計学の考え方」では、テキスト『教養の会計学』を基に私が作成したレジュメを用いて講義する。「IFRS」に関する授業では、事前に各自発表者を決め、テキスト『IFRS 会計学基本テキスト(第7版)』の担当箇所をまとめたレジュメを作成し発表，意見交換を行う。										
授業展開	<table><tr><td>1. ガイダンス 2. 会計学の考え方①（理論とはなにか） 3. 会計学の考え方②（会計の原初形態） 4. 会計学の考え方③（会計利益と人間心理） 5. 会計学の考え方④（制度のデザイン） 6. 会計学の考え方⑤（まとめ） 7. IFRS①（意義と全体像） 8. IFRS②（原則主義）</td><td>9. IFRS③（概念フレームワークの構成） 10. IFRS④（概念フレームワークの内容） 11. IFRS⑤（公正価値および現在価値） 12. IFRS⑥（財務諸表） 13. IFRS⑦（会計方針，変更・誤謬） 14. IFRS⑧（収益） 15. 前期のまとめ</td></tr></table>									1. ガイダンス 2. 会計学の考え方①（理論とはなにか） 3. 会計学の考え方②（会計の原初形態） 4. 会計学の考え方③（会計利益と人間心理） 5. 会計学の考え方④（制度のデザイン） 6. 会計学の考え方⑤（まとめ） 7. IFRS①（意義と全体像） 8. IFRS②（原則主義）	9. IFRS③（概念フレームワークの構成） 10. IFRS④（概念フレームワークの内容） 11. IFRS⑤（公正価値および現在価値） 12. IFRS⑥（財務諸表） 13. IFRS⑦（会計方針，変更・誤謬） 14. IFRS⑧（収益） 15. 前期のまとめ
1. ガイダンス 2. 会計学の考え方①（理論とはなにか） 3. 会計学の考え方②（会計の原初形態） 4. 会計学の考え方③（会計利益と人間心理） 5. 会計学の考え方④（制度のデザイン） 6. 会計学の考え方⑤（まとめ） 7. IFRS①（意義と全体像） 8. IFRS②（原則主義）	9. IFRS③（概念フレームワークの構成） 10. IFRS④（概念フレームワークの内容） 11. IFRS⑤（公正価値および現在価値） 12. IFRS⑥（財務諸表） 13. IFRS⑦（会計方針，変更・誤謬） 14. IFRS⑧（収益） 15. 前期のまとめ										
成 績 評価方法	発表内容（60%）および授業への取り組み姿勢（40%）を評価要素とする。										
成 績 評価基準	総合点が 80 点以上を A、79～70 点を B、69～60 点を C、59 点以下を D とする。										
テキスト	① 田口聡志『教養の会計学』（ミネルヴァ書房，2020 年） ② 橋本尚・山田善隆『IFRS 会計学基本テキスト(第7版)』（中央経済社，2022 年）										
参考図書	授業の中で指示する。										
準備学習に 必要な時 間、又はそ れに準じる 程度の具体 的な学習内 容	① 発表担当の場合 テキストを読み込み，理解を深めるとともに，他者に分かりやすい説明ができるよう準備を進めること。この準備は本授業の学習だけでなく論文作成やプレゼンテーションの練習にも通じる。 ② 発表でない場合 テキストを読み，意見交換ができる準備をすること。										
学生への メッセージ	本講義は発表とディスカッションを重視している。よって，発表する担当箇所だけでなく、日々の自発的な学修・研究を通じて，会計力を高めておくことが求められる。活発な議論をしましょう。										
オフィスアワー	授業の前後または下記のメールにより受け付ける。										
連 絡 先	電話番号	0274-42-2828（内線：5407）		メールアドレス	iwashita@jobu.ac.jp						
人数制限	なし										